



舞曲扇林

乾坤

特別
13
1404





序

大孝たうこうくさうい悦えつありやあひ 今いまはこの時ときを乃可か
 くこれは此のの林はやし茂もをあけて花を咲かす候まじ
 みのり乃及まるる菩ふ薩さつ處ちよ胎たい經きやう之し
 やん又また殊しゆ勤きん拍ぱく守しゆ觀くわん音おん歌かう舞ぶをまと
 いふくくにもくくつつききくく 東ひがし山やま風かぜ流ながれ
 隱いん將しやう軍ぐん帝てい童どう坊ぼう乃乃智ちある哉哉三さん人にん
 撰せんハハをを觀くわん世せ音おん此こ三さん字じ成なりて觀

何^あ孫^せ世^あ何^{おん}孫^あ音^あ何^あ孫^あと^あ百^あ世^あ々^あ觀^あ子^あ
 事^あと^あ文^あと^あ成^あ作^あじ^あめ^あ世^あ不^あハ^あふ^あと^あと^あ
 世^あと^あ考^あ十^あ八^あ振^ああ^あと^あ媽^あ々^あと^あ付^あ子^あ世^あ
 々^あハ^あと^あ能^あや^あい^あふ^あの^あハ^あ成^あり^あと^あ也^あ
 尚^あ世^あに^あ觀^あひ^あ何^あ多^あり^あ二^あ本^あを^あ考^あん^あ也^あ
 け^あふ^あと^あ成^あ初^あら^あ希^あハ^あ觀^あ何^あり^あ世^ああ^あり^あ
 考^あ何^あり^あ考^あ不^あ一^あ種^あ考^あ舞^あ乃^あ茶^あ
 考^あ考^あり^あり^あの^あ果^あ乃^あち^あり^あ也^あ考^あ野^あ

雅^あり^あく^あ雅^あ々^あ里^あに^あ節^あ報^あ石^あ木^あの^あ草^あを^あ
 發^あ連^あと^あし^あひ^あり^あけ^あ成^あ鞴^あと^あ雅^あひ^あさ^あ考^あ
 八^あ百^あ万^あ此^あ々^あ神^あ乐^あ天^あ乃^あ盤^あ下^あを^あ
 推^あ々^あ考^あの^あい^あふ^あも^あ考^あ舞^あに^あ送^あ法^ああ^ある^あ
 考^あや^あ西^あ白^あや^あ考^あ乃^あ出^あ聲^あ此^あ考^あ考^あ
 考^あの^あ考^あの^あ考^あ考^あ

洛水卜太公隱士

蜉蝣夏婆塞序

目録

- 一 白拍子男舞（おとこまひのこぶし）
- 二 時花比治（ときはなひぢ） 朗詠比治（ろうぎひぢ） 並（な） 浄御（じやうご） 交（まじ）
- 三 女乐芝居（おんながくしばゐ） 比治（ひぢ）
- 四 傾（かたむき） とつ（とつ） 祈（いのち）
- 五 奇（あま） 華（はな） 妓（ぎ） と書（か） し（し） 事（こと）
- 六 小（こ） 舞（ま） 通（と） 事（こと） 超（こ） 女（に） に（に） 夫（と） と（と） 云（い） 云（ふ）
- 七 名（な） 元（もと） 奇（あま） 華（はな） 妓（ぎ） 始（はじめ） 四（し） 条（じょう） 阿（あ） 系（けい） 芝（しばゐ） 居（い） 始（はじめ）

- 八 町（まち） 小（こ） 女（に） 舞（ま） 花（はな） 云（い） 云（ふ） 事（こと）
- 九 六（む） 方（ほう） と（と） 事（こと） 事（こと）
- 十 十（じゅう） 六（む） 女（に） 舞（ま） 花（はな） 始（はじめ）
- 十一 都（みやこ） 見（み） る（る） 事（こと） 付（つ） 付（つ） 傳（でん） く（く） 事（こと）
- 十二 時（とき） 花（はな） 六（む） 熊（くま） 事（こと） 付（つ） 付（つ） 能（のう） と（と） 事（こと） 字（じ） 刻（こく）
- 十三 並（な） 六（む） 熊（くま） の（の） 事（こと）
- 十四 若（わ） 者（が） 花（はな） の（の） 花（はな）
- 十五 若（わ） 者（が） 比（ひ） 四（し） 所（じよ） 事（こと）

其弓之常此事

七首乃備此事

六程拍子此事
付拍子繞此事

九拍子數用事
付如石之拍子刻

並脈之也此事

辛色不及此事
付同院

五華此心業此事
付意 並 此

三主之也 吳見子

三主拍真似藝此事
付後去繞

二高古之此若元方
月為女方

二五江戸狂言作志

二六之樣落古來事知

並相云不作為

二七江戶系之板芝居座元始

並之板下之根元

二八伊勢踊始
付作男五奇仙



古風

舞曲府林

乾

今様

○五人揃見乃揃多しに言隱乃家りた奇
 奇くいとく女々稚たあ子たり舞
 我指南誠くこ誠誠く況こと存利
 孰更の尋事何り相云尽て此藝いつま
 若時より始りあむぞ又世上乃人相云
 庭云つさゆみしと根れあつ身事あし
 とおもへり志ろ何りといふも世に名成

高ふしふまれまゝの何りいつま此
 乃あも後くして佳名あしか^{みち}さ
 女中揃あ細あもや答へ相云尽^{いっ}て
 乃庭あも後りあんろ何りといふも
 舞り志ろ若らほくも又相云尽此始^{たつ}め
 而あに何れ相云尽といふ若らあも
 以^りく
 一昔香舞院乃雨時溜れちせも此
 まいともく二人をば思何り白きまも

かんりさう内家試さし鳥帽を引
いせりれた男前を色い白拍子も
中せり女は落る成る成る成る
と中是也

二、その後原走り物屋奇のさ内和
り他り終る成る成る成る世も
たやしきと成る朗詠と成る
朗詠と成る成る成る成る
東福寺北虎園字乃反平成る成る

めん為り三聚韻を撰とよりなり
字此乃平成考なり昔の書多
時ハはよ終る急まる由朗詠す
云り源流書此の音律に叶
のめれ乃平令くはは是く成る
ちをせりあのみは世なり手こ
成る成る成る成る成る成る
成る成る成る成る成る成る
ハ稀く成る成る成る成る

上子申之... 乃古古... 乃即... 由我... 三 又...

車山殿... 荒神... 是... 丑... 子...

かゝ指を事しくに藝成りせり
小左更と云下後を木歌と名成之少野
七井松ありて始て奇華枝去るあ後し
傳り又を後傳の西雅波傳りて
奇華枝枝しりりて和歌古々此華枝
上よりみく自是奇華枝落る此不
極めりりて時京中へ扇風呂と云ふ
六 此此洛陽は山此れ相通と云
く通しが身如と後くまじりりて

伊人ありし時
とやう姿又影なく聲あはれ
世上に山此れ始と云ふ
奇華枝御る成十二伝りて
本ありと云傳るり此始と云
るりと名付りるも夫續此
傳るり始りて成十二伝りて
しりりると名付りて本始
歌子傳ふ又加し己りて不聲雅成

傳へ是に曲觸之始と雅皮の
舞しととと降るり城多ふ人の
流もく巨付かし已そを前ふ是を
依後傳奇華妓ととお歌奇華妓も
よりけ時めぬまれたまハお歌少更と
つら申せ女に更といふり成以始の
りもとけぬ之加々お通ハ奇ハ名
世りわうと

七 又ありし由め更といふり依後傳奇子

了在原を少原とて有り二人とのり
後と後し傳るに四葉河原町とある
て始とありし由め更といふり
以牙に四葉河原に芝指何まことお素
八 又町よ女子の雅藝志れ相月くソ
き傳る小社とお通さるありあれば
地いおりせよありし由想今之條線小
うくに始り伝事と指菊られも申
奉止采歌句りぬえまは町よ女子れ

藝す類何まゝに或一とくはに傳く
舞子とせり

九 六方 六方より此変

六方と八依後清音婦女の村名護を
之元とふ作男のまよふ志を精を
とて二人何り老り清系に行ふ
くるとふ借し方がある花はその方
を伝ふぬまゝ産後におく何事
たぬ事成ふとく魚の何り精を

自持とれり一は男あり也のいふる毎
笑ひ成りよせり此之成依後清音
帯妓の村之元後志にあまゝとく
り借し方とく成志を花と
より麻方といふ事あり六方も六方
誤りよや精をいふは其意あり是
ねん此世理字に私に目見さるる
こころといひく笑ひを傳へ流るる
とつひく

十六番の事なれど

- 一 一と一内事 女がやむ事所をさる
 二 一の事様ひ 女あはれよすまひめ
 三 神の事さう 女はあまの事さよう
此の事一の事さひのあらはにけり
まごころさうと事さる
 四 万代 よろづよ 女あはれいね事さるの
 五 まする事 女あはれあまの事さる
 六 くら事 女あはれくらよまの事
 七 事さる事 女あはれ事さるの事さる

八 おの事さる

女あはれの事さる

九 かわら

女あはれ事さる

十 事さる

女あはれ事さる

十一 山事さる

女あはれ山事さる

十二 事さる

女あはれ事さる

右十二番はか通極めはくわやあ
 女あはれ事さるに仕觸小事さ
 名付くたはくわやあはくわやあに成て

男子乃いふ事ありに約は是れ我の事
ゆへにお志をせしめり 實は仕觸ふ
許しに於ては成さざりしゆ
とくは志は事小華にゆき
小華は成さず知人稀
土 是れ我の事と云ふ何り又事
部は下と云ふ何り女名は山
無事といひ男見ゆ成り見
といひはる 是れ名に付る山は
お教

物ふまひいふ事や小華を
うとく成ありは事は山は
福をいふ事見ゆ事と事
相教は成りやめり由角の
仕相教は事いふ山
松女は時と海く風流は事
一いつくは是れ書し日記は
拍子に刻を卯 百事より
少張形見ありと云ふ角の

上書に吾信とくきてはるる角女
 是紙ゆきその後大板は餅業平太の
 上中といひ一明物傳ゆといふ程云仕
 是行物事な思親と角女ち書成
 傳ゆにむらに歌ありまれば日記言
 信の一事を写し程に傳ゆといひありある
 傳ゆ是紙書信程と名付けて是より
 小葉あどお月お来うらむあままり
 弄とも吹束志第うらそ又盲左な思とそ

奇事女靴は上は傳ゆに不登しとく
 古来此不作といれ柏子此刺紙子使
 来うのこ やこ 是をき又おと
 きしし 上柏子
 ち十二巻は是紙加へ十上女とせり
 け伊真くぬき巻此内まへハ六ヶ巻
 りむりしとるるとこ々にありすきは
 今あ事あれと色角程とら事あれん
 むうしありとく曲よく流るあ何つとら



しものふし 吃^キ練^リなるみ 使^シりや 仕^シ觸^ツ小
葎^ハ成^リを^シる^ル風^ニ 考^カ位^レは^ハ女^メ嫁^セ也^ト 小^コ葎^ハ
書^キこ^ト 古^コ来^リ八^ハ十^シ六^{ジュウ}中^{チュウ}女^メに^ニ三^{サン}條^{ジョウ}六^{ロク}不^フ入^ニ
々^々ハ^ハ略^リして^テ三^{サン}條^{ジョウ}を^ヲ加^カふ^ルむ^ルし^ハお^お不^不
く^ク小^コ葎^ハお^おす^すり^り五^ゴ々^々と^とり^りと^と七^{シチ}十^{ジュウ}安^{アン}
に^ニハ^ハふ^ふ入^入く^く

十二 六態

葎^ハに^ニ六^{ロク}態^{タイ}と^とし^し事^{コト}何^ニり^りむ^むし^し六^{ロク}詩^シ奇^キ紙^シ

直^{チキ}り^リ視^シわ^わく^く葎^ハし^しゆ^ゆに^ニ六^{ロク}儀^ギを^ヲ立^タて^テり^り
詩^シ奇^キ此^{コノ}意^イ成^リく^く知^チく^く家^カ人^ニに^ニう^うし^し
葎^ハし^しゆ^ゆに^ニ自^ジ物^{モノ}と^と考^カ律^{リツ}よ^よけ^けひ^ひん^ンを^ヲ感^{カン}
せ^せむ^むる^ル成^リゆ^ゆり^りさ^され^れど^どこ^こを^ヲ傳^{デン}の^ノ
ち^ちと^とせ^せる^ルは^ハま^まに^ニ仙^{セン}術^{ジュツ}を^ヲ宗^{シュウ}牙^ガハ^ハ田^{テン}果^カ昔^{セキ}口^コに^ニ
傳^{デン}ゆ^ゆく^くと^とり^り名^ナハ^ハ末^{マツ}代^{ダイ}女^メ孫^{ソン}せ^せり^り
一^一又^又曰^曰態^{タイ}と^とし^し事^{コト}仙^{セン}教^{キョウ}也^ト 女^メ十^{ジュウ}八^{ハチ}
四^シ態^{タイ}と^とし^し事^{コト}成^リ祝^{イハヒ}り^り女^メ乃^ノ牙^ガ持^チる^ル多^タり^り
を^ヲ傳^{デン}ゆ^ゆく^く態^{タイ}と^とり^り々^々根^ネ蔭^{イン}元^{ゲン}女^メ乃^ノ

此段は有るふゆみ態と云ふは或は意と
是を云ふ

一 態と徳の姿之態と云ふあり天は
乃其の或以てふ能を能とすは是能之
能より下心多くと態と云ふは是徳の姿と
云ふ

一 六態 虚實景曲平轉

虚と云ふは空之發端よりして何れも
實ハ其聲非或は或るも今其字を

或は或るは一も虚を云ふ或は或る
虚と云ふは別あり又或る虚と云ふ
虚ハ陽之實陰之實と云ふは乃
其より一し又或る或は或る陰之
意と神と合して或る或る右の或
虚と云ふ陽之意と神と云ふは實
を其の或る事と別あり或る事と
一 景と云ふは或る景月夜と
志くその事と云ふは山川乃其る

一き響音成りて第一の末に黄て音は
 ふく物たるをまきくしたに花咲くを成
 華をまきくをまきりて第一何り
 才一風吟 古きふん 才二 遠近 とぎき
四文字はか
 才三 言低 平地たし 才四 方角 さうかく
うや 才五 のり 結糸 ゆいと 才六 ぬる 天事 てんじ
こころ 心と曲と目尻 めじり のあまは あま 才七 小難 せうなん 才八
 是 けい 才九 才十 才十一
 一曲と風流あり 是 これ 才十二 才十三 才十四 才十五
かたがは

一 姿をまきぬ事ありに徳を忘る事有
 し 或は長成りてく あひ 小袖のたは
 を を 是 これ 徳を忘
 せし し 上 う 福乃立振 ふくのたち 才十五 才十六
 才十七 才十八 才十九 才二十 才二十一
 一 平と へい 面 めん 神 かみ 才二十二 才二十三 才二十四 才二十五
 才二十六 才二十七 才二十八 才二十九 才三十
 一 轉と てん 安 やす 才三十一 才三十二 才三十三 才三十四 才三十五
 才三十六 才三十七 才三十八 才三十九 才四十
 一 氣成 きせい 轉 てん 才四十一 才四十二 才四十三 才四十四 才四十五
 才四十六 才四十七 才四十八 才四十九 才五十

十三

六態鏡

玉川千之丞

玉川三徳

法名頼信

上村大左衛門

をよ比叡之お

一 千之丞之孫は云々し志ありと六
 終代流のれなすし 或云千之丞公舞乃
 下多し聲よくあをを前しく面神
 るより身ゆよ若然とまうといふ誤り
 あり千之丞ハ虚曲乃二ハ流ゆり虚ハ
 何んたしく流くしを陽く神ゆより
 り華お甘り曲ハふりりあり千之丞

曲成觸りり 廻見乃流成起く家と
 そのふ成流又字一人也之をふ人
 後多し成考て女性乃流をよくか
 別せし由み見物もん成とすめり
 多し是虚曲此をを分別せしゆ
 一 玉川之孫景此二つをより実ハ
 之聲車雅を能くおひ今く流魚
 をよ流くふあしむ魚成りお
 されん云横笛夕月而せし表れ

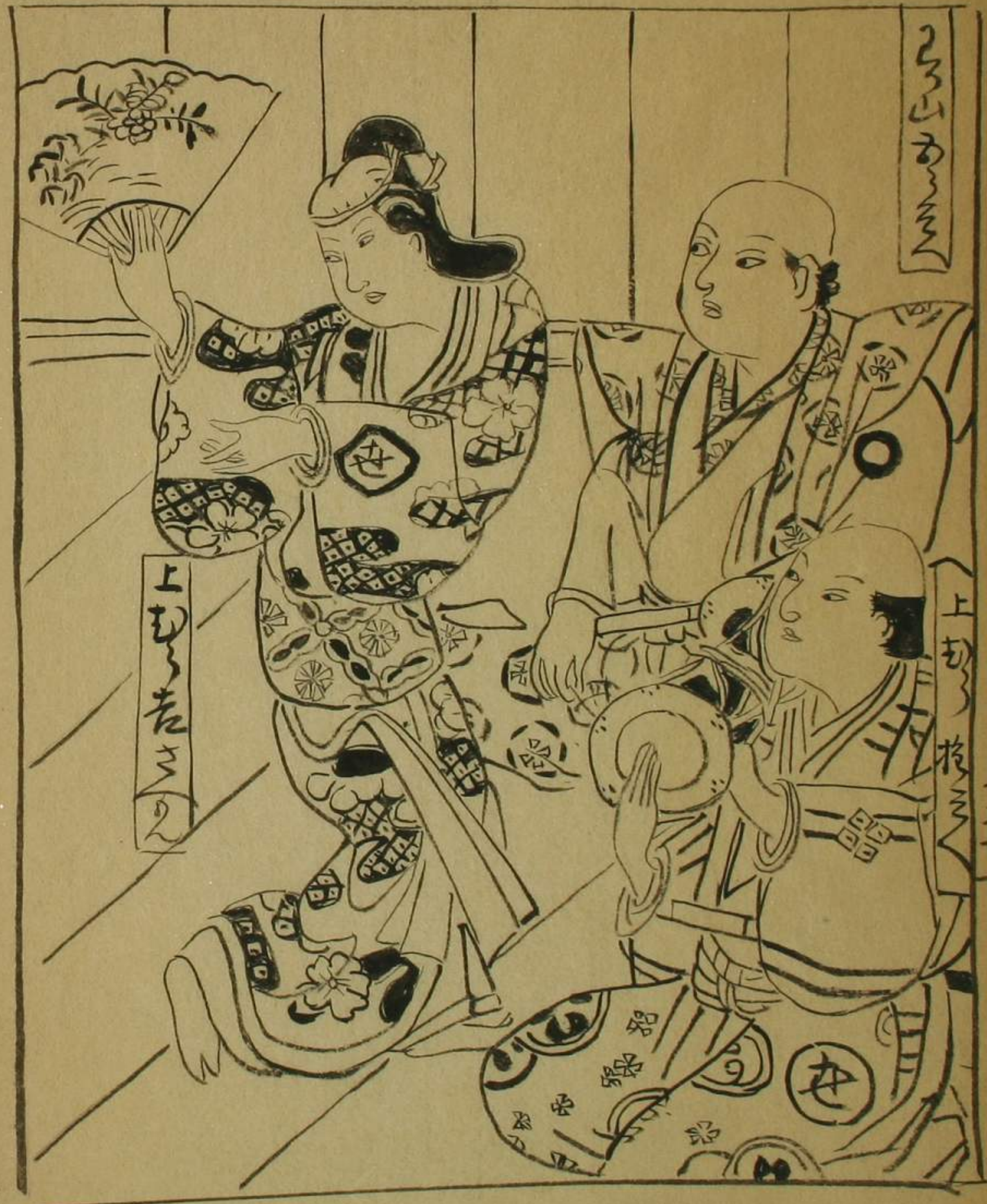
り感ありとく見ぬ乃老を神を志不
孫次とつるは景へ事一頁を舞
おに早風の遠近言伝方角よく二
史しと舞し足取りと子あり或
その比ましく八たりまよの稀ありしが
とへんまに志くも長きたりを舞
ぬる

一上村名延ハ平轉を自由にあせり
平ハ面射の心力為めくやとさうに

華轉ハ安ううあり悦とく氣
轉とくこ吾孫是をよく考安ううに
正しくと華中よ早く氣をと久ん
を何よあ行雲此風り雨飛身秋の
美あの日よ懼ごとく不化を面せり

竹雨とくあわは本の氣おれりやあ
そはゆをぬる一歌書るるや

は舞にゆり成流く終よ二首の中よ
ん之能何り早く氣成轉とく八面



御も云こと久くは事はせしめし
見ゆるに平見より一日にききと暮昏
み及く燭をとりきりし時化又何
あある是を平轉にききとふ
乃相云此役他志習ら平轉を判ゆ
あり

古 着衣乃花 伊坂少吏
是もあし者而也六態此後而れ
そのふ成りあはるるに男花ん

戎和者藝さへやたし曲有り轉
在事成りしをまは乃上子
了惜分全盛乃文を新皮此毒に
比風流此成者妻乃陽子梅廿二
戎いとああまはたれ一頁もその繪
を墨紙此流もぬものあは文このむ
乃あられぬ一二ひまみゆ乃日よりん
地定りしうきとあはれ此物
さるましくは河川後う改おひその

覆屋の月とともにあざむくこと
なふこれ一息乃とくもあはれもあ
あやとよけら杖と紙打たれと紙
あやとせし心おほりしよめ紙と
若ぬ根をか望く木杖一紙とて是
邯鄲の寔み若くは舞する芳泉乃
なりんものもあては出たとも
胸多あはれをぬよりまほしき道
よあぬ久

十五 舞北四病 手足胸腰

腰をのりて神をこし自あるとま久八頭何
ふぬきもし紙より自入とま久八頭何
川もあまよまよまよもあびおるこ
臂わたをぬあハままままままま
もまま又何るものこ足匠ハあづも何
まは牙の川をい見にくくや此舞ハ
肺を融り艶よ舞や功を成物とと
腰多しく足のあづもあはれを功を可ん

見^ミゆ^ミの^ミ腰^ウを^ウこ^ウぎ^ウて^ウ一^ウ足^ウは^ウひ^ウあ^ウら^ウり
 何^{ナニ}も^{ナニ}な^{ナニ}ら^{ナニ}ぬ^{ナニ}る^{ナニ}も^{ナニ}一^{ナニ}足^{ナニ}は^{ナニ}ひ^{ナニ}あ^{ナニ}ら^{ナニ}り
 何^{ナニ}も^{ナニ}な^{ナニ}ら^{ナニ}ぬ^{ナニ}る^{ナニ}も^{ナニ}一^{ナニ}足^{ナニ}は^{ナニ}ひ^{ナニ}あ^{ナニ}ら^{ナニ}り
 何^{ナニ}も^{ナニ}な^{ナニ}ら^{ナニ}ぬ^{ナニ}る^{ナニ}も^{ナニ}一^{ナニ}足^{ナニ}は^{ナニ}ひ^{ナニ}あ^{ナニ}ら^{ナニ}り
 何^{ナニ}も^{ナニ}な^{ナニ}ら^{ナニ}ぬ^{ナニ}る^{ナニ}も^{ナニ}一^{ナニ}足^{ナニ}は^{ナニ}ひ^{ナニ}あ^{ナニ}ら^{ナニ}り

- 一 腰何
- 一 引何
- 一 大馬より小馬なり
- 一 右左乃あり
- 一 初より何
- 一 一馬をひあし
- 一 順逆の何
- 一 角の何
- 一 右左よりなる何
- 一 一をゆる何

ち^チか^カら^ラに^ニぐ^グる^ル能^ネい^イ候^{コウ}す^ス魚^{イサ}身^ミ事^{コト}も^モ控^{コウ}
 あ^アら^ラま^マは^ハん^ンよ^ヨ形^{カタル}ぬ^ヌ屋^ヤま^マく

其^キら^ラと^ト森^{モリ}乃^ノ其^キ

々^々や^ヤれ^レ藝^{ゲイ}作^{サク}め^メま^マあ^アく^ク神^{カミ}を^ヲ舞^{マユ}は^ハら^ラぶ^ブ
 其^キこ^コし^シと^ト足^{タデ}を^ヲあ^アら^ラし^シく^ク切^キを^ヲか^カは^ハら^ラし^シく^クを^ヲ
 こ^コこ^コく^クと^ト人^{ヒト}の^ノ云^{イハ}吾^ガ形^{カタル}射^{カサ}は^ハら^ラぬ^ヌ楯^{タテ}
 乃^ノ其^キの^ノ矢^ヤ射^{カサ}は^ハら^ラぬ^ヌ膝^{ヒザ}を^ヲ起^タて^テ横^{ヨコ}に^ニ射^{カサ}ら^ラぬ^ヌ
 何^{ナニ}も^{ナニ}な^{ナニ}ら^{ナニ}ぬ^{ナニ}る^{ナニ}も^{ナニ}一^{ナニ}足^{ナニ}は^{ナニ}ひ^{ナニ}あ^{ナニ}ら^{ナニ}り
 射^{カサ}は^ハら^ラぬ^ヌを^ヲ入^イち^チぐ^グた^タの^ノ足^{タデ}を^ヲ太^フく^クす

踏^{ふみ}と^て射^や是^れ神^をを^る原^を而^も射^す
 腰^{こし}多^く足^を此^に踏^むや^うさ^らら^うは^なる
 弓^を強^し是^を射^す小^まし^き舞^を
 神^を礼^まふ^べ勿^れ後^を又^も弓^に其^善
 一^日和^志射^和二^日和^容之^儀何^の之^儀
 曰^く主^皮能^中竹^貝四^日和^頌雅^頌合^五日^興
 舞^と舞^同ト^と何^り吊^も不^是成^成
 お^も小^女弓^と舞^下に^く各^射を^射
 之^射に^弓或^射鋒^を横^へる^力或^射持^もん

射^ひと^射あり^法法^をの^同一^多は
 之^者を^時花^乃舞^乃中^に射^はる
 一^射と^射なり

十七

舞乃備 まひ そま

坤

○舞^{まひ}比^ひる^るか^かと^とい^いふ^ふ舞^{まひ}始^{はじめ}る^る村^{むら}乃^の辰^{とち}不^ふ去^く
 又^{また}舞^{まひ}作^{つく}ると^と云^い仕^{つか}舞^{まひ}不^ふ行^{ゆく}予^よ知^ちの^の事^{こと}
 以^も備^ひ具^ぐ魚^い貝^{がい}幸^{さい}と^と是^{こゝ}を^をあ^あが^がよ^よく^くあ^あり
 と^とい^いふ^ふ奴^{やつ}と^と云^い座^ざを^をあ^あそ^そむ^むと^と同^{どう}あ^ある^る舞^{まひ}
 其^{こゝ}の^のあ^あそ^そむ^むに^に舞^{まひ}ハ^ハ然^{しか}し^し座^ざを^を
 あ^あそ^そむ^むに^に舞^{まひ}ハ^ハ成^{なり}あ^あら^らず^ず
 是^{こゝ}を^をあ^あそ^そむ^むに^に舞^{まひ}ハ^ハ成^{なり}あ^あら^らず^ずは^は何^{なに}も^もな^なし^しと^と云^いふ^ふ

事阿ら

○舞のそにあつて次第に之を稲阿り
けいせいせいの村といふ本知人ありて甚ひま
まうしに之をめぐらふたにむかひ何そり人
初月くまのりて雲城をれに打あし月
及くあつ中なるを他物といふ片戯る
とつち和志方ありて云波一傳りり
けいせいせいの長れをまれありてさうさ
せえーと聲舞 郷音子 梁を勅くらりて

郷音子自慢のそい聲波一入ありたり
之地をぬめつるある乃といふけいせい
之阿そりしわりやうなうてりありは
きいといわたりて野をこころ代ありてよ
とくめつれりあるもふりやまける
けいせいせいのにむかひ 産後此稲を
けいせいせいの聲をこころめりな相もま
を宛てふらぬるや二人もに稲をあつて
さう乃そりてなるやゆいれありてさう

もふくらくらたおろし

○又云及乃子幕何者かあるにあらん

と申さるる何う又云くたあると申さるる

ある是れ木のり 純分別を金可事と

ふ知この事なり

大 程拍子なり

○徳及子程といふ事迄とも 袖と拍子を

合して離れぬ物事も 形時ハ云及二行

にあり 拍子ハた月く安く程ハ成りぬし

秘伝志くば公熱と云事と云一ぬとをみ

足成流あり二ツありくわち我之足おれ

を七足坊と云作を家次是秘伝志くば自也

ハ成事一小奇に云くも上るりもくもをや

不傳ありとも云くせハく交あるんハいそが

ハく見にくるる金一是昔成るるふま

ちくは奇に事ありと云く一も程成りしよ

はのりくせつしうぶと云くも悠何し

ぬくぬくよく 秘拍子成急と云志く奇と

すゝ因意成入し

羽虫指をる

若山あはる

○是物ゆゑしそ致ふら志成舞舞舞
志成舞りと拍子成能た目成を成るるの
所作をまのりく隙ありと八言を志る自由
をうたひ所作に移りて成りては是
舞をとうふ志てさきなき世に名成
言ふせり舞と音と和合世人も成るる
成るる事なり

九 程拍子数用

○又どの程七ツまゝく八極あり八ツと
いひくは喜量と成八ツと拳保と
或ハ中代十八代といひ或ハ女学八代及の
従来と云事やちよれうは八子とにう
する魚うは是は喜量と成つる
又拍子乃元ハ中代数此程八ツとけ八ツか
想しへ拍子成刻おしうり待も七言分
又言八言と事飛揚と事前後八言と



是發端為若此種或合之六十四卦
成立之八卦を本としてあること

○拍子乃種八つと云ふべし地比る何れ拍
子めく指或打その種を流るるに八つは打
切乃房と云ふ地比るある由八つはこれに
そなることより八つは刻かして引とり
行地おくりと刻かして引とり二つは八
つん地おれを餘も亦是は其の刻を

○又云何れ拍子或脈をいしとのま脈
虚実をいし八つは脈子不同何れは
脈をいし遠ふと云ふ無拍子

○又云脈拍子或平等此拍子と云ふ佛大會乃
御のり八つは情も性もいし半は鉄る
と云ふ八つは情かしさきはけ脈拍子或平等
中拍子といふその房鉄るとも八つは遠
し拍子此數用八つと云ふれに云ふ又音量
量のいし又八つは刻かして引とり八拍子

おのゝまのむねまきばおろり拍あそく嬉しき
けりしと種織しはさうあは熱いこれ拍
子刻あまのありとたきくのらりけ
んりにありは中るに何ん

○中るに何んさる或るさうとするさあこれ
拍子乃種ハせりて始み指南より後述
とせりて刻あそくさうきさうた
はんとさうはんとこと

是是拍子ハ十一のく種ハ皆せりてあがも

けりし是は種く拍子おはききもさ種ハ
こおせりてさうしのおそくあせりてさ
はり、種くみさるせいのをさして何んハこあ
七つめて算那念こさ拍まるとんさう
とんさうたは是もせりてさあうり拍子ハ
遠いぬれど種ハせりて刻あそり伊勢
おろりもせりて扇まきおろり地おろり此君
も七つて刻さうとさう此拍子乃刻りこあ
はるより中るに和しき功を成く是さく

光緒不ハ人安れども 秘を志し分創
世々由人他る不の志よき合方とありす
家人稀之 結考之 志意 疾乃つるの 不
乃進退をよく 窺ひ 見ましく 申と 用ひ
又事之 申ハ 秘乃根之

の秘くありありの身ハ色しよふ
はようぬそはあつてハいふ

廿 想どてとやう 秘うつらつら 秘乃根
も人の氣ありて 見不ふ 是乃及之

又舞能乃より 舞法まきくことをおろく
る川む事老のいさあり 曲阿まこと 舞
見物も人傳ありて 是を不他
しうと法及み 色不及五身

色不及禮

○中比ち近原なるといふあり 名身 時分
外めめつらあるあり 名成とあり
之屋古傳内 芝居ありて 名そのとあり
上めごと 何ありてなる由あり

らんり

粗乳

○妻^{つま}成^{なり}る^るふ^ふ何^{なに}り^り子^こ成^{なり}る^る何^{なに}り^りも^も
お^おい^いり^りれ^れと^と粗^ろ乳^{にゅう}よ^よの^のは^はい^いの^の事^{こと}に^に見^み
ゆ^ゆる^る不^ふ老^{らう}ふ^ふり^りの^の聲^{こゑ}新^{あらた}れ^れぬ^ぬ依^よる^るも^も角^{かく}
妻^{つま}の^の子^こ一^{ひと}人^{にん}子^こ乃^{すなは}ち^ち初^{はつ}め^め粗^ろ乳^{にゅう}あり^り
あ^あら^らる^る子^こ而^{しか}に^に月^{つき}花^{はな}を^をさ^さら^らる^るも^も妻^{つま}子^こ
乃^{すなは}ち^ち忘^{わす}る^る事^{こと}あ^あく^く月^{つき}よ^よす^すら^らる^るも^も不^ふ作^{さく}
せ^せは^はら^らず^ず印^{いん}に^に何^{なに}の^の水^{みづ}も^もよ^よく^く濁^{にご}る^るもの^{もの}に

と^との^の古^こ来^{らい}より^{より}上^{じやう}の^の何^{なに}も^もこ^この^の事^{こと}に^に見^み
万^{まん}事^じ不^ふ以^い味^みに^にぬ^ぬる^るも^も落^{らく}葉^{はつ}葉^{はつ}の^の事^{こと}に^に見^み
え^えの^の古^こ来^{らい}の^の事^{こと}に^に見^みる^るも^も不^ふ作^{さく}の^の事^{こと}に^に見^み
存^{ぞん}在^{ざい}の^の事^{こと}に^に見^みる^るも^も粗^ろ乳^{にゅう}と^と上^{じやう}の^の事^{こと}に^に見^み
中^{ちゆう}の^の事^{こと}に^に見^みる^るも^も粗^ろ乳^{にゅう}と^と上^{じやう}の^の事^{こと}に^に見^み
法^{ほふ}の^の事^{こと}に^に見^みる^るも^も不^ふ作^{さく}の^の事^{こと}に^に見^み
百^{ひやく}の^の事^{こと}に^に見^みる^るも^も粗^ろ乳^{にゅう}と^と上^{じやう}の^の事^{こと}に^に見^み
ら^らの^の事^{こと}に^に見^みる^るも^も粗^ろ乳^{にゅう}と^と上^{じやう}の^の事^{こと}に^に見^み
即^{すなは}ち^ち遠^{えん}志^しの^の事^{こと}に^に見^みる^るも^も粗^ろ乳^{にゅう}と^と上^{じやう}の^の事^{こと}に^に見^み

勿論し子又キとぬあう毎一とち
中村傳ありね乳乃志とく一ぐと紙介
あふれ見物し移りてわらりし磨一や
冬万に心活く毎事一

廿二 台板見

○不作をわぐ華ち斗も目も
業のつ原地紙にわらる目
まほどそあ比不作す一世界字す

あられだ瘴と相もつた等采みはら志
お月しそ教内和みわしく大子に
あふひ甘いふ一云しそを役乃わ紙
結らんく想はもやう種をあらせばお
くみちるあうにむらん目またんとあひ
空理にせりぬをあげくあのみ見物しや
がり又ね云は及そのわあうあぐありて家
と人ようとあう業あり一そ役のわと紙
多別あうせりぬ志よ子比たてくあふと

怨をぬくむるは是下た此天魔のいふ
といふなり 詠藻の言慢さるるの怨を
合む是をまに何もせよ上りあれども
何より長そつたいのいふそのあれを
色名残の言こそ上りあれ座中と也
云ハすなり 口傳あり

芝 地真似葉

○利根 天和拍子きこらるる何りの

花より能成見えと地いふるる聲を不
作の身振拍子踏らるるその地と似た
たをよのけはあり 是大なりあり 多し
和志より十倍よくと後乃志是或也
とらんハ拍子と葉と一匹いむる事と
まじしと事とよくにまじるといふ
知ハるる葉なり 何れなり葉と葉
ひゆら角ハ缺くそのあつた
天ハるる風をめぐく 又まじるといふ

よくさる者乃心北付ぬる而ど城よく
くね魚氏うまの神聲かみこ考ま立振舞まにせたる
んハ物ものの

證據しんこ

中村傳九郎

中村七三郎

村山四三郎

山川彦三郎

宮崎傳吉

市川園十郎

花井廿三郎

是皆こにこる者あかくにせあるものありし

多しち此乃婦なり夫を家かふ急いそぎ更またを
ぐしおのく一流いちりゅうをませせしめ存ぞんず
くあり

坊主少き衆

○是よりいおみく乾風俗かんぷく也小き馬氣まき
轉まじ海うみに坊主ぼくしゆ乃すなはちとく層かさを何なにし
ふくまをとり海うみよりこ後のちは風俗かんぷく何なにも
まはれと也皆みなまのめく始はじめ功こうをあげ
あり



三國志傳

西玉吳子

斤山仁德系

○皆是一流を立にせざるものありて自然
乃ぶく我を何〜〜〜名姓とまり上
あるはとそ是をま〜〜〜んハ怒り多し
敵とけみちのものあり〜〜〜人の名姓
さ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
の聲乃陵ぬる志も他〜〜〜〜〜〜〜〜

ありはる〜〜〜

其也 古々此若尻

○々此ありやういせんと相違せり尚特
其の流井市前前の子友山美後の半助治
いつまと言舌阿き〜〜〜にせり媽のありやう
志と希ありあ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
戒り〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
う〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

きさうくせんせうぬのあしやう老人のし
 ねあしをくぬき梅の老をえ自
 があはくせんくねくくころんは自
 うくあはくくじよくあしをこきいた
 ちあのかんせんしぬりぬあどつるる
 おんたごねねにるせりぬく是云系
 ぬき梅は年常くもろく二連家
 を志まきり馬と常あふしこまは
 何ることにくぬきぬきにけなぬき

〇はひあをみあしゆ方ねん北の川しめた
 ひろくにあり箱成うつみんをる海ね
 玄波はちりあまいたひろくにうた
 ありまきくさいくらくくあま
 むあしにあしをれちる方けしとあ
 やしあ葉をささるせよあちくす
 ニろくあしはよくにはまろくと
 こしたくあしを美しあしゆきう
 体にくく大さにつやあるよあす

或ハ蝨あらいノ毒どく業なり平ひら而しにハさし何なにり
 小こにせさるゝものこことくくありやうやうと
 とさうたぬりたぬりにに毒どくありあるある無なき
 半はんくくあり美みくく多たくく奇きかけ
 ててあややあややににははららんんありありささねねをを
 ねねをを攻こうめめくく一一宮みや下したののありあり大だいききににああるる
 中ちゆう村むら取とるる飛とりりあありりめめめめくくままどどや
 なくなくままううととまま何なにくくあありりわわららくく
 五ご志しここああせせりり上じやう方ほうままとと上じやうとといいふふ

いさひりて

中村教子 さらあや山々

安月七十郎 かなんこあし

恒和又三郎

○十月乃見しげるる不ふ々々此こゝ若わ花はな方かたああるるし
 疥せがをを忘わすれれをを瘡かさ帯おびあありりままどどあありりて
 三さんつつととあありりるる宮みや何なにりり若わ女によ方かたあありり

松崎中保

○系けい大だい反はん志しるる此こゝ若わ花はな方かたあありり

ぬむらうしくまを多あふふも又歌面し
いよゝまられともよく女権のひまをうら
し 怨とくまきん神と毒と後りく
上り成魚一舞り言ふ亦も亦も
羨し

神降る所

○ね云々や有り 評め及摩
利之志ぬゆ

村山万三

○藝がり物いしとやぶく又何事とも
にくくんききええ見わ見負の久
わゝるれり

中やまの物

○是聲のよきはうにあの宮高角微
羽をよく飛く人を感きむるをた
男舞の横如来奇音技も移りし
いよぬへしとね云々にありく
陸井山とね本まじしけきよの女れハ

此是盤中... 感於心... 於

廿五 江戶和言作者

玉井檀八 南山全德三系

宮崎傳吉 市川團十郎

○各趣向分て二神變乃とて是後... 傳吉... 功成...

廿六 傳十郎

拍子付 拍子付 拍子付 拍子付

拍子付 拍子付 拍子付 拍子付

○是古來乃事... 拍子付

聲ハ拍子に... 拍子付

次曲... 拍子付

多し是... 拍子付

拍子付 拍子付 拍子付 拍子付

下十九



とく師匠しやうたる身にあつては師匠しやう匠ぢやうまゝに
能あたりぬかぬおこころにまゝに
まゝに何なんれを一流いちりゆうを二ふたおさへん況けい下
蓋けい哉

廿七 江戸京大坂芝居元始

蓋けいと云ふは根元

○歌舞連うたぶらといふものハ京四條村山又京芝居
の村むら杉すぎ平ひら良よし三みつ糸いととの糸いと杉すぎ子こ舞まの上のうへのたゞ
かゝく建たて仁におまゝ小細こさい工く小糸こいと糸いと中ちゆうの

みゆきしむ四十しじゅうのハあつてはさし
まゝにむかししとらふもの成なりまゝなり是こゝに
亦またはあまゝとらふもの歌舞連うたぶらといふもの
し

○驚おどろハ古傳こでん内うち芝居しばい乃すなは時とき 歌舞連うたぶらといふもの
いふこと始はじめて作つくりおこすものを申まをす
おまゝと又また程ほどくはうつゝおまゝと

○ちよと京きやう方かたなる内うち芝居しばい乃すなはか川がわこの
風俗ふうぞくよくぬき袴はかまをぬき 供くわ河が川がわに座ざ

夜しきり分麻方わつたあけりまきまお
御のまのあしあき敷きさけ相足し敷
なるこ

○糖さうの後よさうさうとあつたあし

さうさうと他江戸あし中村大助さう

作
○辰戯と名付し娘ハ西塔あし是ハ

大坂まであしあし奇舞妓の後塔あし

とき大坂芝居の娘あし時よあしあ

り

○又さうけ此唐神をきりあしさうり

くさうさうハ坂あしあしあし

此のあし神まきりくさうさうさう

それらまきりあしあしあしあし

○あ女方同あ元方娘ハ依原治奇舞妓

乃時原原さし原さう娘ハこれあし

娘とさうさう娘ハあしあしあしあし

まゝにしくつ事成路と云ふ身なるも

所

○拍子舞の踊り右子あふ竹崎を親日おやまろん

仲介これか小舞をよみお招きするよみ

小舞をたはると

○よきりここれ拍子舞よきハ中村勘之あつたき法名

宗月是始也

○小舞之源報ハ左東分こゑありゆいつ電

を始とふる身事しる也一いままや之極は

○古伝芝居ハ路ハ権左乃左乃それ右
舞来久左邊ハ中村居也親之それ右
方来也

○勘役 富子仕 左来子こゑあり事之

但一た之ハ相言ハ人買ハ喜を更あてて然

人可致しこれハ勘役ハかすこめ共二

以いおめ大伝おまき成なる也と云和志わ之後

沙さの屋やと云り相言ハ他志た之ち以いは

かかんんと云り討うと云二に方か後ごと云りめて

事あるればかゝるに後身が仕とて後人
を極めしう実なる仕に和みさせしう
後らうも悪人たりて致ぬよめ
續ね云との事も是れ始め

廿八

伊勢踊歌

○伊勢のとりは踊りあはしとて躍のたの
あり仕首の神楽をうとあそびたり
しう後り雨気あよの及あそびたり

○伊勢のとりは踊りあはしとて躍のたの
あり仕首の神楽をうとあそびたり
しう後り雨気あよの及あそびたり
○少々の古来のお月くまるとしてとて極
の風成極めしうあそびし公家とて極
あそびのしう
○和言も古来の歌集のあそびしう
あそびしうあそびしうあそびしう
事ハ右より傳へしうあそびしう

志んく居あまがねくハ父か心成窺人爲
弟部くどうしよも村を雲れ地をぬら
了うを花めく花女何もく何り申よも光
山吹く名よるふあめわりをちりわりくハ
光うもした縁霞しあろが又川かささみめ
人あしつらうけあん後ハ山吹く
りとあけける山吹海及一乃小奇の上
あくまあろくもあつと怒るよれ海
うくましくちやましく田男成られど山吹が

女子顔を見えや心とくま竹ありよ一婦し
乃ちくひあさかみあまうねのいれを山
田より雲までいそろ方十六里隣より幾
をふた回くぐるや人のあつと園思
とそおのいあう京部れまこを修り
く身れまははさくともぞくうわよたあ
ああああを何くそもあちのく城あ
杉色相月し山吹もああああああ
噴と袖そあうすあうあああああ

まきか神みゆらあうおあーれういて
心誰をゆきぐ雲たこ際もろぬ漂敵
初内山吹り和氣成え祓みく奇よ〜
ひちり

お辰にま〜まいこ乃さ〜桂柳とれ
あうが〜あおぬい〜うあ

お〜ぬ〜何〜〜あ〜う〜ひ〜ろ〜と〜と〜も〜け
奇及中み〜流布ちり成山田み〜抱眠
若徒け〜奇み又初内山吹り事成〜人〜と〜身

みゆらお〜り〜る〜々〜れ伊務お〜り〜あ〜ま
より弟みあ〜も〜と〜ま〜も〜あ〜ま〜く〜た〜や
ア〜ら〜ら〜ん〜ん〜ん〜ん〜と〜抱あ〜も〜何〜つ〜ま〜り〜て〜夜
り〜さ〜あ〜ま〜ば〜お〜り〜け〜ら〜中〜何〜ん〜あ〜と〜ん
や〜り〜ぬ〜と〜い〜は〜〜〜〜及中あ〜ち〜ひ〜あ〜り
ら〜ら〜ら〜ら〜旅〜ら〜も〜目〜ら〜言〜あ〜れ〜も〜け〜あ〜ら〜う〜ら
め〜ら〜じ〜さ〜れ〜け〜も〜め〜あ〜り〜ら〜ら〜ゆ〜い〜よ
く〜け〜宿〜継〜承〜昌〜昌〜と〜と〜と〜後〜内〜ハ
父の程〜〜と〜ら〜ら〜ら〜より〜京〜教〜へ〜上〜り〜ん〜ん〜ん

山吹花の芽めそまだ
明香おのよ何ま
里もあけよみまうり
希らけしゆくの夜より
光山吹ありし
使宿も寂るるとこそ村
をゆるし奇ふ

光らでけり山ぬきや
希らよるれ
神さめあや志うれしと

山吹花の芽めそまだ
明香おのよ何ま
里もあけよみまうり
希らけしゆくの夜より
光山吹ありし
使宿も寂るるとこそ村
をゆるし奇ふ

光らでけり山ぬきや
希らよるれ
神さめあや志うれしと

福さめあや志うれしと
りらと

跋

夫奇舞に二字ハ菩薩方便乃音楽
よりあきり

琵琶 箏 琴 笙 篳篥 笙 篳篥

和琴 横笛 笙 篳篥

簫并

篳篥并

け中み横笛篳篥篳篥此二并ハ奇并志
給不是を八童子といひ是右より拍子
乃教之世俗ハハ拍子ハそら子と子
ハハ撥と子皆是拍子此教之根元之又
妓ハまの部の元女乃奇年せしゆま
妓乃字或加ハ八百代色々横乃安元
と名付承托一由る不乃女子承ま由
うせしめくしやうけ云々花初く肩

其の如くはさしめく指南行る又此の如くハ
人始り志給らん人色け書此一ツく成り
元給く善悪此不之く御慰乃真何ん
と向のハ音曲此定乃内り一先之終毫
成通一く綴新ものありし

右付書に色去一者此名成よハ
何もの人何り々ハ下
あ吟味よめ来事る由ハ終ハ終ハ終ハ終

至^た其^こ境^へ口^{くわ}借^か争^まに何^{なに}も^もな^なふ^ふ意^い
可^い勸^{くわん}と^とに^に我^{われ}又^{また}付^つ書^{しよ}に^にそ^その^の文^{ぶん}を^を何^{なに}ら
い^いと^とも^もお^おま^まい^いと^とも^もお^お何^{なに}り^りお^お家^{いえ}
付^つは^は尋^{じん}来^{らい}給^{たま}ふ^ふ又^{また}此^{こゝ}の^の府^ふの^の御^ごと
不^ふ知^ちり^り妾^{めかけ}頭^{あたま}し^しと^とん

作者

河原崎權之助

